

健康ニュース



带状疱疹とは

带状疱疹は、水ぼうそうと同じウイルスで起こる皮膚の病気です。大人が水痘・带状疱疹ウイルスに感染すると、体の左右どちらかの神経に沿って、ピリピリとした痛みが出た後、赤い斑点と水ぶくれのある発疹が帯状に多数現れます。

带状疱疹の経過と症状

带状疱疹では、皮膚症状が現れる数日前から、神経の流れに沿って、しびれ、かゆみ、ピリピリする痛みやチクチクする痛みが現れることが多くあります。皮膚症状がないため带状疱疹と気が付くのは難しい時期です。数日後、皮膚症状が現れると痛みはピークを迎え、皮膚症状が治まると痛みもなくなりますが、症状の多くは上半身に現れ、顔面とくに目の周りにも現れることがあります。顔面に起きる带状疱疹では、角膜炎や結膜炎を引き起こし、まれに耳鳴りや難聴、顔面神経麻痺などの合併症を引き起こします。

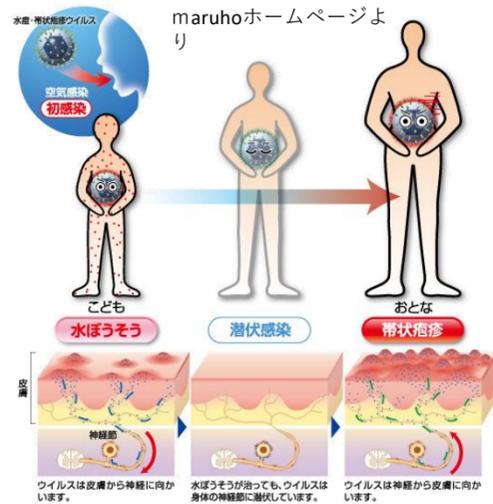
带状疱疹にかかったら...

带状疱疹は、抗ウイルス剤による治療時期を失うと、残念ながら、神経節に痛みの後遺症が残ります。一般的に発疹が出てから3日以内に抗ウイルス薬を飲み始めると良いとされ、症状が治まってもウイルスがいなくなっていないこともあるため最後まで飲み切ることが大事です。症状が重い場合や免疫力が低下している場合には、入院した上で抗ウイルス薬の点滴による治療が必要なものもあります。痛みに対しては、一般的な鎮痛剤が使われませんが、痛みの度合いには個人差があり、痛みの強さによって痛み止めを使い分けることもあります。夜も眠れないほどの痛みが続く場合には、ペインクリニックなどで神経をブロックする注射剤を用いることもあります。

带状疱疹に

なぜかかるとの？

子供の時に初めて水痘・带状疱疹ウイルスに感染した時は、水ぼうそう（水痘）として発症します。しかし、水ぼうそうが治った後もウイルスは体内の感覚神経の根元にある神経節に潜み、加齢・肉体的疲労・精神的ストレス・風邪などで体の免疫の働きが低下したときにこのウイルスが再び活性化し、带状疱疹を発症します。带状疱疹は他の人に带状疱疹としてうつることはありませんが、水ぼうそうにかかったことがない人には水ぼうそうとしてうつる場合がありますので注意が必要です。



带状疱疹の後遺症

带状疱疹後神経痛（PHN）といわれ、皮膚の発疹がなくなった後も残る神経性の痛みです。ヒリヒリ、ピリピリ、ズッキーンとする非常に激しい神経痛が、突然襲ってくるのが特徴的です。「刺すような痛み」や「焼けるような痛み」と表現されることもあります。痛みで立ち仕事や家事、椅子に座るのもつらくなります。人によっては、この带状疱疹後神経痛が一生、残るともいわれています。带状疱疹後神経痛には、一般的な鎮痛剤とはちがう種類の薬が保険適応になっており、これらの内服薬による治療がメインとなります。

後遺症と漢方

带状疱疹後神経痛は、漢方薬で治療することがしばしばあります。経絡と体質を診た上で処方を選ぶ必要があるため、専門家に相談しましょう。短期間で良くなる人もいますが、時間がかかる人もいます。



带状疱疹五か条

- ✓ 带状疱疹は予防が大事! 過労、寝不足注意!
- ✓ 带状疱疹は予防が大事! 50歳以上はワクチンも検討!
- ✓ 带状疱疹かな?と思ったら、まず早めの受診!
- ✓ 带状疱疹にかかったら、絶対休息!
- ✓ 带状疱疹の痛みは個人差あり。痛みが強いときは、しっかり相談!



带状疱疹に

かからない

ためには

予防するには、十分な睡眠を摂ること、栄養のバランスの取れた食事を摂ること、適度な運動をすること、過労を避けること、心の安静を保つことなどを心がけましょう。また、60歳以上の人は、带状疱疹をワクチンで予防することができます。日本人の8%以上の人は、带状疱疹の原因となるウイルスの抗体を持っています。しかし加齢と共に獲得した免疫の効果は徐々に弱まっています。実際、带状疱疹の発症年齢は60歳以上で70%近くを占めており、65歳以上のワクチンが大事なことがわかります。

